令和３年度養成校意見交換会　議事録

日　時:令和４年２月２３日（水）　15：00～17:00
場　所:web 開催
参加者：
福岡県理学療法士会出席者名簿

会長	西浦　健蔵	甘木中央病院
副会長	廣滋　恵一	九州栄養福祉大学
副会長	松﨑　哲治	専門学校麻生リハビリテーション大学校
副会長	諫武　　稔	福岡青洲会病院
総務局	永野　　忍	九州医療スポーツ専門学校
総務部	松垣竜太郎	産業医科大学医学部公衆衛生学教室
財務部	田代　耕一	花畑病院
組織部	佐々木圭太	小倉リハビリテーション学院
学術局	遠藤　正英	桜十字福岡病院
学会部	久保田勝徳	桜十字福岡病院
教育研修部	岡本　伸弘	福岡和白リハビリテーション学院
社会局	高橋　博愛	宗像水光会総合病院
公益事業推進部	脇坂　成重	桜十字福岡病院
公益事業推進部	佐藤　孝二	
職能部	沖原　優子	桜十字福岡病院
地域包括ケア推進局	今村　純平	久留米リハビリテーション病院
地域包括ケア推進局	志田啓太郎	戸畑リハビリテーション病院
支部局	岩佐　聖彦	久留米大学病院
福岡支部	山口　　寿	専門学校麻生リハビリテーション大学校
筑後支部	福田　輝和	朝倉医師会介護支援センター

出席部長名簿

総務局	総務部	寒竹　啓太	産業医科大学病院
	総務部	池永千寿子	製鉄記念八幡病院

養成校出席者名簿

	施設名	担当者（役職）
1	九州栄養福祉大学	廣滋　恵一（学科長）
2	福岡天神医療リハビリ専門学校	河元　岩男（学科長）
3	柳川リハビリテーション学院	横尾　正博（学科長）
4	国際医療福祉大学	金子　秀雄（学科長）
5	福岡国際医療福祉大学	柊 幸伸（理学療法学科　教授　学科長）
6	小倉リハビリテーション学院	岡部　貴文（教務主任）
7	九州医療スポーツ専門学校	中山　大貴（専任教員）
8	帝京大学　福岡医療技術学部	関　　誠（教授）
9	専門学校 麻生リハビリテーション大学校	田中　裕二（校長代行）
10		山下　慶三（理学療法学科 主任）
11	専門学校 久留米リハビリテーション学院	大坪　健一（教務部長）
12	北九州リハビリテーション学院	大島　秀明（学科長）
13	福岡和白リハビリテーション学院	藤本　一美（理学療法学科　教務部長）
14	福岡医健・スポーツ専門学校	朝妻　恒法（学科長）
15	福岡医療専門学校	坂口　文宏（学科長）
16	福岡リハビリテーション専門学校	伊豆丸修一（学科長）

日本理学療法士協会理事名簿

常務理事	白石　　浩	日本理学療法士協会教育推進課担当

目的：「養成校と福岡県理学療法士会の抱える課題を共有し、相互に協力し、その解決を目指す」

スケジュール：

時間	内容
15:00	開会挨拶　　公益社団法人福岡県理学療法士会　副会長　廣滋恵一
15:05	出席者自己紹介
15:15	各養成校の抱える課題についての意見交換 １）啓発の必要性について ２）臨床実習に関して ３）臨床実習指導者講習会に関して ４）卒前教育に関して ５）卒前卒後教育の連携について ６）養成校と県士会の連携強化
16：45	福岡県理学療法士会の抱える課題（総務部理事より説明） - 新卒入会者数の減少について １）県内新卒入会者数の推移について報告 ２）新卒入会者数の減少の要因に関する意見交換 ３）対応策の検討
17：10	閉会挨拶　　公益社団法人福岡県理学療法士会　副会長　諌武　　稔

1. 開会の辞
   西浦会長より挨拶

2. 出席者自己紹介
   参加者一覧より参照

3. 各養成校の抱える課題についての意見交換
   - （事前アンケートで問題を把握し整理）

１）啓発の必要性について
1. 「志願者数の減少。小中高生に対する理学療法士の啓発活動（養成校）」

理事 A：福岡県内の養成校の入学定員数と、福岡県内の学校を比べると、各クラスに１人前後の希望者が必要になる。現在、公益事業部にて県内の一般の方向けに認知度調査を行った。結果として認知度は低かった。特に、若い世代、職域では病院以外で働く人にとっての認知度の低さは著明だった。現在、公益事業部では認知度を上げる取り組みを提案、検討している。いわゆる Z 世代の対象への啓発として SNS などの発信の準備を進めている。病院に来訪される年齢の高い層ではなく、若い世代に啓発したい理由の一つに、就職した PT の中に退職され、異なる職種に転職する人がいる。就職の際に、思い浮かべていた理学療法士の業務と認識が異なっていた人もいたのかもしれない。正しく理学療法士像を認識していただくことも課題としている。

理事 B：協会では小中学生のみに焦点を当てた具体的な取り組みはない。理学療法士の職域を拡大することに重点を当て、厚生労働委員会の小委員会では法律改正や予防領域への参入などを進めている。小中学生へ焦点を絞った広報ではないものの、リガクラボなど一般向けの啓発を現在日本理学療法士協会（協会）では行っている。

２）臨床実習に関して

1. 「コロナ渦で実習地の確保に苦慮しています（養成校）」
2. 「養成校が実習生の到達目標を定めなければいけないが、現場が望む実習での到達目標や、学校が行う実習前後の評価について意見交換が行えると良い（養成校）」
3. 「コロナウィルス感染のため、実習受入れが難しい施設が多い。実習生受入れに関して、県士会として理解と助言を行ってほしい（養成校）」

理事 C：学生への感染、院内への感染を考慮しての病院・施設側の判断にゆだねられるため、県士会独自での明確な回答は、現状できない。しかしながら県士会としてできる支援を検討したいという考えがあることはご理解いただきたい。
理事 D：現在、病院や施設では、患者さんや利用者さん、また職員の安全を確保することですら、精一杯で不十分な状況である。コロナ禍の実習受入れについては、臨床現場においても課題であると考えられるため、相互の理解が必要である。

理事 E：卒前卒後委員会では、その課題に関しての議論は現在不十分であり、卒前卒後で今後検討を進めてみたく、課題としたい。

理事 F：今回は Covid-19 感染流行であったが、今後新興感染症が発生する可能性は否定できない。今回の感染症流行の対策として、どのような課題があったのか整理をしたいと考えている。養成校に向けてアンケート調査を進めていきたい意向があり、ご協力を仰ぎたい。

理事 G：臨床実習だけでなく、日常生活など広く、意見を収集し分析したいと考える。

<臨床実習前後の評価について意見交換>

理事 B：ガイドラインには明記されていないが、協会では、臨床実習前に評価を行い、評価を踏まえたうえで臨床実習に臨み、臨床実習後にも評価を行うことが望ましいとしている。昨年より始まった指定規則検討部会（部会）では、来年度の課題として、ポストオスキーを標準化し、普及に力を入れたいと検討している状況がある。ポストオスキーの普及の課題として、教育現場の先生のみでは難しく、臨床の先生に協力を仰ぐ必要を考えている。

養成校：コンピュータによる CBT の情報についてもご紹介いただきたい。

３）臨床実習指導者講習会に関して

1. 「臨床実習指導者講習会に関して、全国リハビリ学校協会の講習会との棲み分けをどうするか（養成校）」

理事 E：現在、講習会の開催にあたってその実施を進めているものには、協会と全国リハビリ学校協会との２軸がある。県士会で実施する目的は「収入を上げる」ではなく、実習指導者を増やすことにあるため、臨床実習指導者講習会の機会が増えることは望ましいことと個人的には考える。学校協会との連絡協議会が必要なのかも含めて、連絡協議会で検討すべきであると考える。

養成校：全国リハビリ学校協会との講習会実施にあたるすみ分けなどについてはについて３月の連絡協議会で検討する予定。話し合いの内容は、協会が示す講習会の手順と全国リハビリ学校協会の手順の比較、受講料の差、の２点である。

2. 「臨床実習指導者講習会を受講された先生方でも、実習時間や実習課題についての理解が不十分な場合が見受けられる（養成校）」

理事 E：臨床実習指導者講習会を受けた後、すべての受講生（指導者）が十分な指導を施行できているとは言い難い。受講した内容は、個人の中で風化していく可能性は十分ある。そのため、受講後のフォロー講習会の開催を企画している。

養成校：実習時間に関しては指導者の認識に変化がみえている傾向にある。しかしながら、なかには守っていない指導者がいるため、学校個別の臨床実習指導者会議や臨床実習指導者講習会を通して十分に伝え、依頼すべきであると考える。

3. 「養成校として、臨床実習指導者講習会の受講者数が充足されていないという不安があります。修了者数の把握や講習会の補完的開催を支援していただくなど、臨床実習の充実化にご協力頂きたいと思います（養成校）」

理事 H：福岡県における 2019 年度臨床実習指導者講習会修了者は 587 名、2020 年度はコロナ禍で開催できなかった。2021 年度は現在 487 名の受講が終了し、合計 1074 名となった。3 月に 2 か所で講習会を開催予定である。2021 年度は県士会以外でも複数、開催されており、約 1300 名が修了していると推測される。福岡県内の 5 年以上の理学療法士数は 3683 名であるため、該当者の 29.1%に当たる。今後も継続的に講習会は開催すべきであると考える。県内養成校の最終学年者数は 940 名であり、修了者 1074 名、114%と何とか、福岡県の会員で充足できる人数に至った。来年度は 8 回の開催が計画されている。今後の講習会開催については連絡協議会の方で計画していきたい。

養成校：全国リハビリ学校協会の開催について現在無償ではあるが、永続してかどうかはわからない。九州リハ学校協会から一部費用負担もある。協会の講師の要件がやや厳しい。全国リハビリ学校協会は一部要件が異なり、講師を設定しやすく、県士会開催の講師について一部の講師に負担がかかっている。今後、開催しやすいように、協会で講師の要件等を見直してもらえれば、回数を増やせると思う。

養成校：客観的なデータの提示について感謝したい。今後の開催の計画について、養成校側の協力は必要である。県士会と全国リハビリ学校協会で調整しながら、学生が良い実習を送れるよう配慮いただきたい。

養成校：作業療法士協会は県士会主導で実施。PT 協会と OT 協会では講師への謝金の出し方も異なるので、全国リハビリ学校協会だけでなく作業療法士協会とも情報交換をしながら検討を進めてほしい。

４）卒前教育に関して

1. 「卒前教育として学生に県士会の活動内容などをつたえる機会を企画していただきたい。県士会の魅力を学生に伝える内容が良いと思います。卒業したら県士会に入会しようと思えるようになれば良いですが…難しいかもしれませんが、一つの意見です（養成校）」
2. 「志望動機のあいまいさ、学力低下と学習方法の未熟さ、コミュニケーション能力の拙劣さ、18 歳としての様々な体験不足。→県士会に望むこと：理学療法士の仕事内容について体験できるような機会を企画して頂ければと思います（養成校）」

理事 F：症例検討会に養成校の学生さんも参加でき、オンラインにて参加しやすいよう、今回整えた。コロナ禍が落ち着き次第、職場体験の協力病院も検討している。

理事 I：症例検討会はコロナ禍前では、養成校に会場をお借りしていた。そのため、会場の学生

さんにも参加していただいていた。今年度よりオンライン開催となり、福岡県内の全ての養成校に案内をだした。一部の養成校の学生さんに多数参加いただいた。理学療法士の仕事や活動を知る機会にしてほしいと願う。今年度、3 支部で開催を企画し、3 月には福岡支部および北九州支部の開催が予定されているので学生さんに参加を促してほしい。

理事 G：県士会の学会や、地方の学会にも学生は参加できるので、ぜひ先生方からも学生さんにお声掛けいただきたい。
養成校：養成校に県士会から理事が来訪されて特別講義の形で説明される機会もあったらいいなと思った。

５）卒前卒後教育の連携、および養成校と県士会の連携について

1. 「卒前と卒後の連携について：新人理学療法士職員研修の現状と展望（養成校）」
2. 「養成校による卒前教育と臨床や福岡県理学療法士会による卒後教育の連携等理学療法の啓発活動と学生募集の連携等（養成校）」
3. 「学生に対するキャリア教育として、県士会や協会の存在を知り、就職後も入会して研鑽を積むことの重要性を学生に理解してほしいと思います。このためにも養成校教員は県士会への入会だけでなく、相互の理解と協力体制の確立が必要ではないかと思います。これからの時代に求められる理学療法士の輩出に向けて、教育・臨床・研究の体制づくりに養成校と県士会の連携は重要と考えます（養成校）」

養成校：卒後のアンケートをとった。他の養成校で実施している取り組みについて聞きたい。当校では同窓会という形で養成校でも卒業生を対象に研修会を開催している。
養成校：当校でも、卒業生のための研修会を開催している。各回生の卒業生に幹事を設け、Line などでお知らせして、開催している。卒業生同士のネットワーク作り、学会発表をしたいという提案には臨床症例の見方や研究の方法などを教員がレクチャーしながら卒後教育という目的で実施している。県士会の症例検討会や、学会での発表というという大きな舞台の前の、小規模な会という位置づけとして開催している。
養成校：当校でも卒業生を中心に、年に一回集めて約 10 年継続して勉強会を開催していた。自身でも小規模に月に一回勉強会を開催している。
理事 F：卒業生の中には就職先で、研究などができない環境になることも想定されるため、とても良い取り組みだと思う。県士会との連携ができればもっと良いと思う。
理事 J：県士会では管理者ネットワークを作っている。管理者研修会の中で、新人育成に悩んでいる管理者が多数いた。養成校とも連携して内容を検討できればいいと思った。

4. 福岡県理学療法士会の抱える課題（総務部理事より説明）
- 新卒入会者数の減少について
  1）県内新卒入会者数の推移について報告
  2）新卒入会者数の減少の要因に関する意見交換
  3）対応策の検討

理事 H：県士会ではマスタープランを検討している。会員の動向を調べ、退会者の減少、入会者の増加を目指している。更に、県民や会員に魅力ある理学療法士会として映るよう、どのような立ち位置で動くべきかを検討している。これからの 10 年間を短期中期長期に分類し計画立案している。学生会員や臨床実習のアンケート調査を検討し、臨床実習指導者講習会の充実、実習施設同士の交流会なども立案している。学生のうちから理学療法士会を身近に感じ、『福岡県理学療法士会に入会してよかった』と言ってもらえるような県士会を目指し、事業展開したい。若手理学療法士への、県士会への入会啓発として SNS の拡充、職域拡大を目的とした新事業も計画している。

養成校：教員の方から協会の役割などは説明しているが、実際に県士会で活躍している理事などから説明してもらえると、インパクトがあるのではないかと感じる。学生はなかなか視野が狭いと感じることがあるので、県士会との連携は魅力的である。

養成校：国家試験後に、県士会役員に個別に依頼し県士会活動について説明してもらう機会を設けている。新人オリエンテーションの情報を学生に配布するなら卒業前が良さそうだが、３月には卒業するので、今企画していることは、今年度間に合うか心配している。生涯教育の必要性や理学療法管理学でキャリア教育など今までは各養成校で説明していたが、外部講師依頼の手段もあると思う。

養成校：学生の志向性の多様化について賛同する。学生の仕事への興味や熱量に以前と異なる変化を感じている。入会に関して、県をまたぐ学生の中で、県で入会金が異なることや、活動や研修会内容の違いは、学生の県士会に対する印象の混乱にもつながっている。入会金等の統一化を含めて新規入会の促進や退会者の抑止についての対策を協会としても検討してほしい。

養成校：当校では、卒業式の３日前に県士会役員に個別に依頼し、県士会活動やキャリアに関する説明をいただく機会を設けている。ただ、就職先での県士会に関する温度感が異なると卒業生から聞く。協会の認定・専門理学療法士を取得することがキャリアにつながる施設と、つながらない施設の存在は入会に影響しているのではないかと卒業生の話を聞いて思う。

養成校：養成校別入会者などのデータを提示していただければ、養成校としても動きやすいので、教示できる範囲でおしえてほしい。

理事 G：事務局および３役と協議のうえで提示できる範囲でお知らせできればと思う

養成校：各養成校で卒業生に、入会に関する有無と理由を聞くアンケートをとってはどうか。実習中にも臨床実習の先生方から県士会について説明してもらっても効果につながるかもしれない。

養成校：当校では、県士会に過去に依頼したことがあったが、実現には至らなかった。当校でも卒業時または、キャリアデザインなどで説明を依頼したいと考える。依頼に関する窓口を教えてほしい。

理事 G：出前講義に関してどの部局が該当かなど調整をした上で、窓口含めてご案内させていた

だく

養成校：学生に対し、定期的に説明が必要と感じている。入会金や会費について、職場での金銭的負担制度があればいいと思った。

理事G：臨床の先生方と養成校、県士会が三位一体となって取り組まなければいけない課題である。今後もご協力いただきたくお願いしたい。

会長：貴重なご意見をありがとうございます。

理事B：組織率を高めるには入会率を高めたい。対応として養成校と協会との連携を強くしたいと考えている。今後、顔の見える形、意見交換などで関係性を深めていきたいと思う。

5.　閉会の辞
諫武副会長より挨拶